

## 2018年度町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会 現地確認報告

日程1 日 時：2018年7月10日（火）9：30-11：30  
場 所：監査事務局（町田市庁舎）、さるびあ図書館  
出席者：奥委員、越智委員、小池委員

### 1 市庁舎執務室のエコオフィス活動状況について（監査事務局）

#### 奥委員

○8名の職員および1名の常勤監査委員の執務室ならびに会議スペースからなる、こじんまりとした整理整頓された空間において、通常はパソコン等による事務作業のみが行われている。エコオフィス活動は意識してしっかりと取り組まれており、評価項目のすべてが5であるということも納得できる。これからもこれを継続していく努力をしていくとのこと。

○監査基準に則って監査手順を見直し、業務効率化を図ったことで、時間外勤務の削減につながったとのこと、この点は評価できる。

#### 小池委員

- ・室内が大変整理整頓され、無駄がないように思えた。
- ・パーティションのない部屋の半分にPCと人が収まっている。同じ部屋で明らかな温度や湿度の差を感じられたので、サーキュレーターなどで、空調の補助をし、体調面での効率を上げられるのではないかと思う。
- ・クールビスと言いながらも、外部の人とかかわりのない部署で、革靴を履き、きっちりワイシャツを着ている。アイロンやクリーニングのいらぬ服を着るなど、庁舎内にとどまらない、地球規模の省エネに寄与できるのではないかと思った。

## 2. さるびあ図書館の執務環境や設備点検及びエネルギー使用状況等について

**奥委員**

○1972年開館の施設であり、かなり老朽化が目立つ。照明や空調も古いままで、こまめな調節は不可能であり、これ以上の省エネを図るには現状のままでは限界がある。

大規模改修なり建て替えなりをしないことには抜本的な改善は見込めないことから、施設再編計画のなかで、図書館の位置づけや再編の方向性を明らかにしたうえで、具体策を早急に打ち出す必要がある。

○PCB 保管場所は特定され表示もされていたが（ただし、既に PCB 廃棄物はすべて搬出済みで、蛍光灯が保管されているのみ）、一方で、ペットボトルが入ったブルーのネットが、何らの表示もない屋外にまとめて置かれていた。産業廃棄物の取扱い・保管については、周知徹底を図る必要がある。

**小池委員**

・「気の毒」の一言である。設備の老朽化がエネルギーの効率どころか、職員の心のエネルギーまで奪っているように思う。ましてや、利用者は・・・

・執務室が暗い。手元の LED ライトの導入など考慮できないか。

・新聞を閲覧する場所も暗い。

・こどもの絵本コーナーにブラインドやカーテンのない窓があり、直射日光が容赦なく差し込んでい  
る。自転車操業的に動いている空調には酷である。

・組織の改編の問題に、設備の補修や改修などが影響を受けている。せめて、LED、サーキュレーター、除湿器などの備品の購入などで改善を図ることはできないのだろうか。

**日程 2** 日 時：2018年7月12日（木）13：30-15：30  
場 所：防災課（市庁舎）、青少年施設ひなた村  
参加者：松波委員、澤井委員、斎藤（之）委員

1 市庁舎執務室のエコオフィス活動状況について（防災課）

**松波委員**

- ・消防団事務局も設置されていて、会議等、外部の方も出入りするため、空調温度の徹底が困難な場合がある（設定温度と体感温度のずれ）。
- ・火事・雨への緊急対応を要する部署であるため、照明をつけたままであることがある。
- ・部署が小規模であるため、くるくるコーナーを使う以前に、部署内で対応するが多い。
- ・ノー残業デーの対応を進めたいが、部署の性質上、時間外勤務が多くなりがちである。

以上から、エコオフィス活動の取り組み状況の評価が、他部署に比べやや低くなっている傾向がある。

**澤井委員**

定数評価は思わしく無かったのが、業務の特質によるものであり、随所に工夫が見られ努力をされていると感じた。結果は重要だが、それに向けて努力していることの方がもっと重要であると思う。引き続きのご努力を期待する。

**斎藤委員**

- ・不定期業務による消灯、空調のロスについて対応が難しいとのコメントがあったが、業務に合わせた職場環境の整備が個別に必要と考えられた。
- ・見学当日の空調設定や消灯などは問題なし。
- ・環境マネジメントとは直接関係ないが、消防団室の整理整頓の悪さは問題。

## 2. ひなた村の執務環境や設備点検及びエネルギー使用状況等について

**松波委員**

- ・昼休みも受付しているため、受付場所を兼ねている事務室も証明をつけている。
  - ・カリヨンホールのエレベーターは旧式のものであり、電源を落とせないタイプのもので、電源を落とすにはブレーカを切るしかない。ただ、車椅子のお客様対応で、電源を落とすわけにはいかない。
  - ・エアコンの設定温度は集中管理であるが、木造施設でありまた屋根裏がなく夏場は設定温度と体感温度の乖離が生じがちで、貸出のお客様からの要望で設定温度を調整することがある。
  - ・照明について、水銀灯から LED に変えた。
  - ・雨水タンクを導入している。
  - ・森林体験など、環境学習に貢献している。
  - ・使用済みポスター、牛乳パック、PETボトルを工作用にリユース学習に利用している。
  - ・紙の分別については、本庁舎と同様。ただし、子供向けの学習・啓発のため紙の使用がやむを得ない。
- 以上より、エコオフィス活動の、施設を管理する部署が実施する設備等の適正管理の状況で、×のある「昼休み時の照明消灯の実施」、「エレベーター・エスカレーターの不要時停止」については合理的説明を受け、また、エコオフィス活動全般に意欲的であることもうかがい知れた。

**澤井委員**

利用者に対し「お客様」意識があるのは良い事だ。

利用者満足を考える中での出来る事や、この施設ならではの工夫などしっかりやっていると感じた。これからも創意工夫をしながら進めて欲しい。

**斎藤委員**

- ・古い施設であり空調に関する設備の不足を雨水の散水、緑のカーテン、伐採木利用など様々な工夫で補てんしている。但し今夏の猛暑などに対応できるかは心配な面がある。
- ・資源の分別、再利用などは施設の特徴（子供向け事業）を反映して、他の施設よりもリユースのが徹底されている。
- ・今後は老朽化に伴う空調設備入れ替えの投資の際にソーラーパネルの設置などで CO2 削減と空調設備の充実を両立してもらいたい。

**日程3** 日時：2018年7月13日（金）9：30-11：30  
場所：経営改革室（市庁舎）、生涯学習センター  
参加者：斉藤（崇）委員、須永委員、多久島委員、葉澤委員

### 1. 市庁舎執務室のエコオフィス活動状況について（経営改革室）

#### 斉藤（崇）委員

・打ち合わせスペースにモニタを置くことで、紙の使用削減と業務の効率化を進めている。モニタは2台あり、同じフロアにある企画政策課や広報課も利用している。このほかプロジェクタの利用や、管理職の会議でiPadを利用し、資料を電子化することなどにより、年間数千枚の紙の使用削減が出来ているのではないかとということであった。

・打ち合わせでのモニタ利用は、多変興味深い取り組みであると感じたが、情報システム課をのぞく他のところではおこなっていない。他の部署の職員では、そうした取り組みを知らない可能性もある。実際に取り組みを広げていくためには予算等の課題もあると思うが、こうした良い取り組みについて情報共有できるようにすることも重要ではないだろうか。また、効果を明確にするうえで、紙の使用がどのくらい削減できたかなどのデータも把握できると良いだろう。

#### 須永委員

・打ち合わせに際し、机に設置したモニター等を活用したペーパーレス化の推進など、良い取り組みが見られた。

・それにより紙の使用量の削減が図られていると考えるが、（紙の廃棄量だけではなく）紙の使用量がどれだけ削減されたかという指標を把握できればなお良いと思われた。

・上記ペーパーレス化については、各部門長の意向により単独で推進しているということであるが、支庁全体の方針として実施するのが望ましいと感じた。

・電灯の間引きや昼休み消灯など、節電意識が高いと思われる。ただし、電灯の間引き等で室内の照度が低いように感じ、労働環境としてはやや悪いと感じた。むしろ照明のLED化等で、照度を落とさないうえに節電をするという対応のほうが望ましいと感じた。

#### 葉澤委員

他課に先駆けて会議にモニターやプロジェクターを利用して、紙を削減している。

予算次第だが、全課で導入できれば相当数の紙の削減につながると思います。

エアコンの吹き出し口にリボンをつけて、風が目で見えるようにするなど、省エネに努力していると思います。

## 2. 生涯学習センターの執務環境や設備点検及びエネルギー使用状況等について

**斉藤（崇）委員**

- ・職員の取り組みに関して、裏紙使用や印刷用紙の包み紙の再利用などがおこなわれている。また空調を27℃に設定し、扇風機を併用するなどの工夫もされていた。
- ・本施設は市民による利用も多く、職員による取り組みだけでは、継続的な改善を進めていくことの難しいのではないかと感じた。例えば、学習室などの空調の調節は、利用者の行動によるところが大きい。
- ・紙類についても、利用者等からの依頼でチラシ類を置いているが、一定期間後は当施設で廃棄している。電気使用についても、紙類の廃棄についても、職員によるものと利用者によるものが区別できないため、さらに使用削減をしていこうとすると、利用者への協力をどのように促すかということを考えていかなければならない。
- ・本施設が学習・教育の機会を提供する場であることを考えると、利用者に対して、環境面への取り組みに関する情報発信等を強化しても良いのではないと思う。また、そのためには利用者によるエネルギー使用量や紙類廃棄量などが把握できた方がよいだろう。

**須永委員**

- ・基本的にはサービスセクションであり、後方部門ではないため、節電等の取組みは難しいと感じる。
- ・照明の間引き等を行っているが、室内がやや暗くお客さまを迎える場所としてはやや適切でないと感じた。むしろ照明のLED化等で、照度を落とさないで節電をするという対応のほうが望ましいと感じた。
- ・空調設定等を制限して節電しているが、一方で扇風機を作動させている。
- ・お客さまカウンターと後方スタッフの執務エリアが区分されていないが、できれば区分させるほうが労働環境上、節電上（空調効果）も望ましいと思える。シルバー人材を活用し、常時お客さまカウンターに人を配置しているのであれば、仕切り等を設置しても良いのではと感じた。

**葉澤委員**

温度管理は部屋の利用者にまかせている。  
10度台にすると切れるようになっている。部屋の利用も含め巡回している  
コピーの包み紙も冊子を送るのに利用されたり、努力されていると思います。  
送られてきたり、持ち込まれたりしたチラシで期限がきたものはセンターで廃棄している。  
今後は廃棄の仕方に課題があると思います。